

『万葉集』ってなんだろう？ —初級編—

令和2年5月27日版

はじめに

奈良県立万葉文化館では、『万葉集』の歌からイメージをふくらませ、ハガキサイズの絵画や書道の作品をご応募いただく、「万葉ギャラリー展」を昨年度より実施しております。対象年齢は、未就学のお子様から、小学生・中学生・高校生までの児童生徒のみなさまです。

児童生徒のみなさまにとって、『万葉集』という作品は日常生活ではあまりなじみのないものかと思えます。ですが、『万葉集』は1300年以上も前にこの日本の地で生活していた、私たちの遠い祖先の心の歴史が刻まれている、世界に誇るべき文化遺産であると考えます。

古典文学、まして和歌は難しい、わからない、と敬遠されてしまいがちですが、歌を紐といてみると、そこには現代の私たちも共感できる万葉びとたちの心が、たくさんつまっています。

本テキストは、「万葉ギャラリー展」のご応募に際してイメージをふくらませてくださいための、『万葉集』に関する基礎的な内容を簡潔にご説明しています。また、絵を描く際の参考となるような資料もあわせてご紹介しています。

古典＝学校の授業で習うもの、というかたくなるしい概念はいったん忘れて、万葉びとたちの「つぶやき」に触れて楽しんでいただきたい。本テキストは、そのようなきっかけ作りとなることを願って作成いたしました。

保護者のみなさまにおかれましては、本テキストをお子様と一緒にご覧いただき、『万葉集』を「勉強」ではなく「遊び」の一環として捉えて、当館の「万葉ギャラリー展」へのご応募をぜひご検討いただけましたら幸いです。

制作担当者

奈良県立万葉文化館 主任研究員 大谷 歩

◇『万葉集』ってなんだろう？（初級編） 目次

- ・はじめに
- ・目次

I. 『万葉集』ってなんだろう？

- ・『万葉集』ってナニ？……1
- ・どんな歌があるの？……1
 - *持統天皇の香具山の歌
 - *山部赤人の富士山の歌
- ・どんな歌の形があるの？……2
- ・どんな人が歌を詠んでいるの？……3
 - *この人だけはおぼえておいて！「柿本人麻呂」さん！！
- ・どんなふうにかかれて書かれているの？……3
- ・どんな場所が詠まれているの？……4
- ・どんな植物や動物が詠まれているの？……4
- ・『万葉集』という名前（なまえ）の意味は？……4

II. もっと知りたい！古代の世界

- ・万葉びとの衣裳……5
- ・万葉びとたちが使った文房具……6
- ・万葉びとが熱中したゲーム……6
- ・万葉仮名（まんようがな）であそんでみよう！（万葉仮名表）……7

III. 『万葉集』をもっと知りたい人へ（参考文献）……8

※このテキストで使用している『万葉集』の歌の引用は、原則として奈良県立万葉文化館の「万葉百科システム」内の『万葉集』のデータに拠り、読みやすさに配慮して適宜修正を加えました。

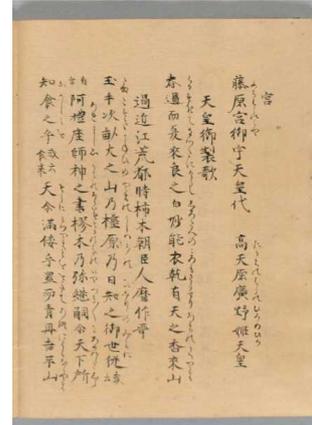
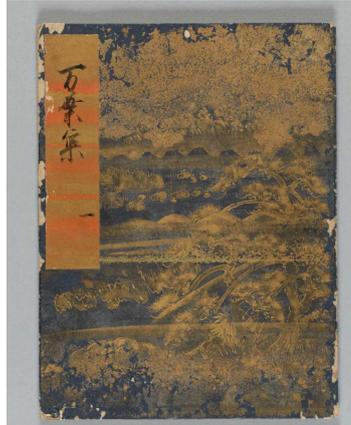
I. 『万葉集』ってなんだろう？

○『万葉集』ってナニ？

『万葉集』は、いま日本に残っている中で、いちばん古い歌集(和歌の本)です。

およそ飛鳥時代から奈良時代にかけて、いまから約1300年前の人びとが詠んだ歌が、全20巻に約4500首も収録されています。古い時代の歌がこれだけたくさん残っているのは、世界的にみてもとても貴重なのです！

『万葉集』が完成したのははっきりとした時期はわかりませんが、およそ奈良時代のおわりころに成立したといわれています。



「万葉集(写本)」 奈良県立万葉文化館蔵

○どんな歌があるの？

和歌はむずかしい！と思うかもしれませんが、『万葉集』の歌の内容はとてもバラエティーに富んでいて、いまの私たちでも共感できるものがたくさんあります。

代表的な内容を見てみましょう。

- ・「雑歌」・・・儀式のときの歌など
- ・「相聞」・・・恋の歌など
- ・「挽歌」・・・死にまつわる歌など

この3つが、『万葉集』の代表的な分類(三大部立)です。

ほかにも、自然の歌・季節の歌・旅の歌・宴会の歌・有名な伝説を詠んだ歌など、万葉びとたちの喜怒哀楽がたくさんさんの歌に表現されています。

わたしたちと同じことを
感じたり考えたりしていたかも！



*『万葉集』の中でも、とくに有名な歌を紹介するよ！

①持統天皇の香具山の歌

春過ぎて 夏来るらし 白たへの衣干したり 天の香具山(巻1・28番歌)

【漢字本文】春過(はる)ぎて 夏(なつ)来(きた)るらし 白(しろ)たへの衣(え)干(ほ)したり 天(あま)の香(か)具(ぐ)山(やま)

【現代語訳】春が過ぎて夏がやって来たらしい。まっ白な衣を干している。天の香具山よ。

飛鳥時代の持統天皇の歌です。「香具山」に衣が干してある風景をとおして、
よいよ夏がやってきたようだというよろこびが詠まれています。

「香具山」は現在の奈良県橿原市にあり、同じく橿原市にある「畝傍山」と「耳成山」とあわせて「大和三山」と呼ばれています。「香具山」は、天から降ってきた山という伝説もあるほど、神聖な山とされていました。そのため、香具山にだけ「天の」というほめ言葉がついています。

② 山部赤人の富士山の歌

田見の浦ゆ うち出でて見れば 真白にそ 不尽の高嶺に 雪は降りける
(巻3・318番歌)

【漢字本文】 田見之浦従 打出而見者 真白衣 不尽能高嶺尔 雪波零家留

【現代語訳】 田見の浦を通して出て見ると、まっ白に富士山の頂に雪が積もって
いたことだ。

山部赤人は、奈良時代に活躍した歌人です。赤人は、富士山が太陽も月の光も隠
してしまうほど高く、季節に関係なく雪が降っている様子に感動して、長歌を作
りました。この歌は、その感動をさらに短歌にして詠んだものです。

富士山の山頂に雪が積もっている風景は、万葉びとたちも大好きだった富士山
の姿なのです。

※この持統天皇と山部赤人の歌は、「小倉百人一首」の中にも登場します。
ただし、「小倉百人一首」と『万葉集』の歌の言葉には、すこし違いがあり
ます。

○どんな歌の形があるの？

『万葉集』には、短歌・長歌・旋頭歌・仏足石歌のように、さまざまな歌の形
があります。

- ・短歌……5 7 5 7 7
- ・長歌……5 7 ・ 5 7 ・ 5 7 …5 7 7
- ・旋頭歌…5 7 7 5 7 7
- ・仏足石歌…5 7 7 5 7 7 7

一番多いのは、31音で詠まれる短歌です。
つぎに多いのは長歌です。長歌は5・7の句をいくつも続けて、最後は5・7
・7でうたい終わります。『万葉集』の特徴ともいえる歌の形です。

○どんな人が歌を詠んでいるの？

天皇、皇族、貴族や下級官人、防人(九州に派遣された東国の兵士たち)、女性、名前の伝わらない人びとの歌まで、はば広い階級の人びとが詠んだ歌が収められています。また、『万葉集』の作者の半分以上は、名前の伝わらない人びと(作者未詳)の歌です。

☆代表的な歌人☆

飛鳥時代：額田王・持統天皇・柿本人麻呂・志貴皇子・大来皇女など
奈良時代：山部赤人・大伴旅人・山上憶良・坂上郎女・大伴家持など



この人だけはおぼえておいて！「柿 本人麻呂」さん！！

飛鳥時代に活躍した歌人で、長歌を得意とした人です。歴史書には記録のない人ですが、のちの時代には「歌聖」(歌の神様)とされ、和歌の歴史の中でもっともすぐれた歌人として評価されます。

東の野に炎の立つ見えて かへり見すれば 月傾きぬ(巻1・48番歌)

【漢字本文】東野炎立所見而 反見為者 月西渡

【現代語訳】東の野に光がさしているのが見える。ふりかえって見ると、西の空には月がかたむいている。

この歌は、阿騎野(現在の奈良県宇陀市)という場所で、軽皇子(のちの文武天皇)が狩をした時の歌です。東の野の向こうからはかがやく朝日がさしはじめ、反対の西の空には月が沈みかけているという、幻想的な風景です。

この歌の「かぎろひ」(太陽)と月は、王の象徴ともいわれています。軽皇子がりっぱな天皇となるよう、人麻呂はその願いを歌にこめたのかもしれない。

○どんなふうにかかれているの？

『万葉集』の歌は、すべて漢字で書かれています。当時はひらがなもカタカナもまだなく、外国語の文字だった漢字を使って日本語を書きあらわしました。代表的な例は漢字一文字で一つの音をあらわす「万葉仮名」と呼ばれる使い方です。

また、歌についての情報を説明する部分は、すべて漢文で書かれています。

万葉仮名表(7P)であそんでみよう♪

ヒミツの暗号みただよ！



○どんな場所が詠まれているの？

もっとも多いのは、飛鳥・奈良時代に都があった奈良県の地名を詠んだ歌ですが、全国各地に『万葉集』の歌に詠まれた場所があります。

一番北は東北の宮城県、一番南は九州の鹿児島県です。

ただし、歌はその場所に行かなくても、つまり想像でも詠むことができるので、地名が詠まれている＝かならずその場所で詠まれた、というわけではありません。

みんなのお家の近くは
歌に詠まれているかな？



© OGAWA COLOR.

○どんな植物や動物が詠まれているの？

『万葉集』には、たくさんの植物や動物が詠まれています。

☆代表的な植物と動物

植物：ハギ・ウメ・モミジ・サクラ・タチバナ など

動物：シカ・ウマ(コマ)・ホトトギス・ウグイス・ツル(タズ)

カエル(カハズ)・セミ・コオロギ など



↑ハギ(萩)→



↑ウメ(白梅)



←モミジ↑

(写真：万葉文化館の万葉庭園／撮影：竹田茂徳・大谷歩(モミジ下段のみ))

もっとも多く歌に詠まれている植物はハギで、シカと取り合わされて詠まれることもあります。ハギとシカは、秋を代表する植物と動物です。

ほかにも、春はウメとウグイス、夏はホトトギスとタチバナなどの取り合わせが好まれました。

身近な動物だったと思われる牛や犬は、実は歌にはあまり詠まれません。意外かもしれませんが、『万葉集』の歌に日常生活が詠まれることは少ないのです。

オオカミは「大神」と音が同じだから
神聖な動物といわれていたんだよ♪



© OGAWA COLOR.

○『万葉集』という名前の意味は？

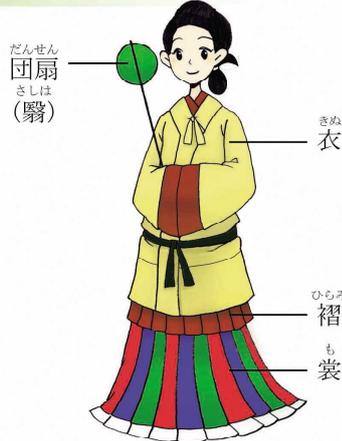
『万葉集』という名前の意味は、「たくさん(=万)の歌(=葉)を集めた歌集」や、「永遠(万葉=万代)に伝えられるべき歌集」という説などがあります。

II. もっと知りたい！古代の世界

◇万葉びとの衣裳

奈良県立万葉文化館「万葉・図書情報室だより」44号より (絵：西田彩乃氏)

飛鳥時代 貴族の女性

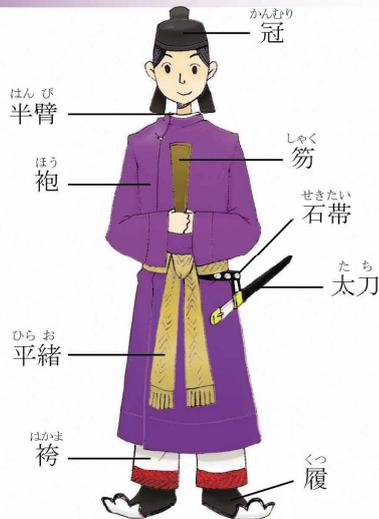


古代の貴族の装い

奈良時代 貴族の女性



奈良時代 貴族の男性



(主任技師 西田彩乃)

万葉図書・情報室だより44号
(平成28年3月20日発行)より
※一部修正を加えました。

〈古代貴族の装い〉
飛鳥時代の装いは、高松塚古墳の壁画に描かれています。ゆったりとした衣裳に優雅さを感じます。

奈良時代の装いは、正倉院宝物に実物が残っています。染色技術が発展し、より華やかさが増しました。

『万葉集』に当時の装いについてわかる歌がありますので、ご紹介いたします。

少女らが
玉裳裾びく
この庭に
秋風吹きて
花は散りつつ
(巻二〇・四四五二番歌)

【現代語訳】
少女たちが美しい裳裾をひく
この庭には、秋風が吹き花は散りつつけて。

◆◆◆万葉びとたちが使った文房具◆◆◆

○木簡(もっかん)

木に文字を書いたものを「木簡」といいます。古代では紙はとても貴重だったので、役人たちは木の札を書類やメモ、荷物の伝票のように使っていました。漢字ドリルのように、字を練習するのも使っていたようです。また、和歌や漢詩を書いた木簡も見つかっています。



○小刀・刀子(こがたな・とうす)



木簡に書いた文字を削るのに使います。いらなくなった面を小刀で削り、新しい面に文字を書きます。古代の遺跡からは、文字が書かれた木簡の削りカスがたくさん見つかっていて、古代のことを知るための大切な資料となっています。

○すずり・水さし

古代にはボールペンもエンピツもありません。すずりで墨をすって、筆で文字を書いていた。水さしは、すずりで墨をするときに水を入れるための道具です。



◆◆◆万葉びとが熱中したゲーム◆◆◆

○双六(すごろく)

長方形の木製のボードに白黒の石を15個ずつなべらべ、サイコロを交互にふって石をすすめ、はやく相手の陣地に石を入れ終えた方が勝ち、というルールです。2人対戦用のゲームです。あまりにも熱中して役人が仕事をしないので、持統天皇のときに「すごろく禁止令」が出されました。また、『万葉集』にはすごろくの目を詠んだ歌もあります(巻16・3827番歌)。



○蹴鞠・打毬(けまり・うちまり)



蹴鞠は、鹿の皮でつくったボールをけりあげ、地面に落としたグループが負け、というゲームです。打毬は、先の曲がった棒を使って、地面の毬をゴールに入れるゲームです。馬に乗る場合もあったようです。今でいうと、ホッケーやポロのようなものです。



☆このページの写真は、すべて万葉文化館の一般展示室の展示物です。展示室を探検して、古代の人びとの様子や『万葉集』について調べてみよう!

◇◆◇万葉仮名であそんでみよう！◆◆◇

万葉仮名表をみながら、自分の名前や好きな言葉を書いてみよう♪

万葉仮名表

和わ	良ら	屋や	麻ま	婆ば	波は	奈な	駄だ	多た	射ざ	佐さ	我が	加か	安あ
為ゐ	利り		美み	備び	比ひ	仁に	治ち	知ち	自じ	之し	芸ぎ	吉き	伊い
	留る	由ゆ	武む	扶ぶ	布ふ	奴ぬ	豆づ	都つ	受ず	須す	具ぐ	久く	宇う
恵ゑ	礼れ	延え	米め	倍べ	部へ	祢ね	泥で	天て	是ぜ	世せ	雅げ	家け	衣え
乎を	呂ろ	与よ	母も	煩ぼ	保ほ	乃の	度ど	登と	叙ぞ	曾そ	期ご	古こ	於お

◎古代には「ん」の文字はありませんでした。近い音は「む」といわれています。
「ん」は「む」におきかえて書いてみてね！



© OGAWA COORO.

☆挑戦☆ ぼくのなまえを万葉仮名で書いてみて！
ぼくのなまえは「オオクチオオカミ」
あれ、「お」ばかりだ！！

--	--	--	--	--	--	--	--

※万葉仮名は、1つの音に対して漢字1文字が固定されているのではなく、複数の漢字があてられます。

・たとえば、「あ」は「安」・「阿」・「足」などとも書かれます。

※この表は、便宜的に使用例の多い文字を1文字だけ選択しています。

※万葉仮名には清音と濁音(が・ざ・だ、など)の書き分けがありますが、清音の文字でも濁音に用いる場合もあります。

参考：中西進 編『万葉集事典』(講談社文庫)

於・於・久・知・於・於・加・美
☆挑戦☆問題のこたえ

Ⅲ. 『万葉集』をもっと知りたい人へ(参考文献)

*【 】は、奈良県立万葉文化館の万葉図書・情報室の資料番号です。

①『万葉集』のすべての歌が載っている本

- ・中西進『万葉集 全訳注原文付』1～4(講談社文庫 1978～83年)【M/ナカニ/1～4】
- ・小島憲之・木下正俊・東野治之 校訂・訳
新編日本古典文学全集『万葉集』1～4(小学館 1994～96年)【918/シンペ/6～9】
→書き下し文・漢字本文・現代語訳・注釈あり。比較的手に入りやすいものです。

②『万葉集』の代表的な歌が載っている本

- ・小島憲之・木下正俊・東野治之 校訂・訳
『日本の古典をよむ4 万葉集』(小学館 2008年) 【910.8/ニホン/2】

○コレクション日本歌人選 シリーズ

- ・梶川信行『額田王と初期万葉歌人』(笠間書院 2012年) 【M211/カシカ】
 - ・高松寿夫『柿本人麻呂』(笠間書院 2011年) 【M221/タカマ】
 - ・中嶋真也『大伴旅人』(笠間書院 2012年) 【M231/ナカシ】
 - ・辰巳正明『山上憶良』(笠間書院 2011年) 【M232/タツミ】
 - ・小野 寛『大伴家持』(笠間書院 2013年) 【M241/オノヒ】
 - ・近藤信義『東歌・防人歌』(笠間書院 2012年) 【M501/コント】
- 『万葉集』の代表的な歌や歌人について、現代語訳や解説がついています。
気になる歌や歌人から読んでみるのも良いでしょう。

③文章を読むのは苦手!という人へ

- ・井上さやか 監修『マンガで楽しむ古典 万葉集』(ナツメ社 2016年)【M/イノウ】
- ・上野誠 監修『マンガでわかる万葉集』(池田書店 2019年) 【M/ウエノ】
→『万葉集』を知らない方でもわかりやすく『万葉集』について知ることができ
ます。入門書としてもオススメです。

④『万葉集』の歌人・地名・動植物・万葉仮名などについて調べたい

- ・中西進 編『万葉集事典』(講談社文庫 1985年) 【M/ナカニ/5】
→『万葉集』に載っているすべての人名、地名、動植物や万葉仮名、初句検索な
どもあり、『万葉集』についてのあれこれを調べるのにとても便利な1冊!

⑤簡単に歌を検索したい!

- ・奈良県立万葉文化館の万葉図書・情報室にある「万葉百科システム」
→パソコンで歌の検索ができます。

☆奈良県立万葉文化館の万葉図書・情報室では、『万葉集』に関する本をたくさん所蔵しています。『万葉集』について知りたいことがありましたら、ぜひ当館の万葉図書・情報室をご利用ください。

※当館の万葉図書・情報室は閲覧のみで、図書の貸出は行っておりません。